

第3回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会 緑整備部会記録《要旨》

- 日 時：令和3年3月26日（金）午後2時00分～午後3時30分
- 場 所：万博記念公園事務所 4階 第2応接室
- 出席委員：山田部会長、井原専門委員、今西専門委員、澤田専門委員、檀浦専門委員
- 事務局：万博公園事務所長 ほか

内容：以下の議事について、協議

1. 万博の森の育成について
2. 日本庭園の新たな魅力創出について

1. 万博の森の育成について

事務局

資料3で以下の4つの概要説明

(1) 新規モデルエリアの設定について

全委員

候補地 1, 5, 6 については異議なし

山田委員

次年度は伐採対象となる常緑樹が増えるということだが、コストはどれぐらいになるのか

事務局

3,000円/㎡程度。つるし切りのため、伐採単価が高く、発生材の搬出経費も高い。今年度は2,000㎡で数百万円程度。森全体をこの費用で実施するのは難しい。来年度は、コスト縮減についても検討したい。

澤田委員

目標林型のエノキ林、ケヤキ林について、構成種など、どのような状態を目標としているのか。エノキ林は、大阪の平野部にあり、ケヤキ林は、沖積地に成立するタイプと渓谷や溪畔に成立するタイプがある。

山田委員

目標林型については、各林班の現状に基づき、設定されたもの。

事務局

エノキ林、ケヤキ林ともに目標像の具体化はできておらず、次年度検討したい。目標林型との表現が、誤解を与えるのかもしれない

澤田委員

施業箇所について、記録が重要。撮影位置を固定し、全方位カメラなどで記録するとよい。

(2) 万博の森における安全対策について

今西委員

根系分布状況の把握について、レーダー探査の試行は、調査効率上がるため、可能であれば是非取り組むべき。細園路は実施しやすいかもしれないが、細園路施工時の締め固めが影響しないか？

事務局

細園路については、車両通行がないため、一定程度の締め固めに留めている。レーダーについては、浅く探査する場合、深く探査する場合と波長を使い分けており、帯水層の把握などにも利用されている。

今西委員

帯水層が把握できれば、樹木にとって有益なため、是非取り組むべき。

檀浦委員

パビリオンの残骸を埋めて万博の森が作られており、土層厚も場所によって違いがあることから、深く大まかにその状況を把握するため、レーダーによる探査を提案した。

山田委員

砂や粘土などの土質の違いは把握できるか

檀浦委員

レーダーの反射の度合いにより、把握できる場合とそうでない場合がある。

(2) ダ・ヴィンチ橋の試行設置について

井原委員

ダ・ヴィンチ橋の取り組みについて、日本庭園より万博の森の方がおさまりがよい。使用する材も万博の森で採れた材であれば、より良いと思う。

2. 日本庭園の新たな魅力創出について

(1) 非日常性について

井原委員

「ソフト」取り組み事例が多く挙がっているが、今後は、価値に軸足を置きつつ、保全と活用の両輪でバランスをとりながら進めていくことが肝要。たとえば事例として挙がっている芝山からの眺望についても、かつてはパピリオンの広がり背景となっていて、今は森が背景となっており、「ただ、太陽の塔が見える」という表層的ではない、ここならではの来歴に基づく価値が凝縮されている風景である。50年が経過し、この庭園の価値認識が社会的に薄れつつある中で、いかにそれを適切かつ効果的にアピールをするかが課題である。その主体となる指定管理者には、万博そのものの価値を認識してもらう必要があるため、指定管理者を対象とした万博の価値を学ぶことのできる研修があるとよい。国営飛鳥歴史公園では、公園ボランティアが公園を含む飛鳥という土地の価値を学ぶための研修を1年間受講した上で、運営にあたっている。

(2) 作庭思想の継承について

(千里庵からの眺め)

檀浦委員

千里庵で、遠見の松を阻害している樹木は何か？一度切ると、それを維持するのは大変なため、千里庵から望めるようにすべき理由は何か？

事務局

剪定対象樹木はケヤキ。遠見の松は、どこからでも見えたが、この50年で多くの場所で見えなくなってしまった。千里庵で遠見の松が見えるようになれば、当時の作庭思想が活かされる。

山田委員

案内時に、説明しているか。

事務局

説明の必須ポイントとなっている。

(心字池)

山田委員

心字池のツツジの剪定は、大きいと切り戻しが難しいと思うが、どう考えているか。

事務局

段階的、部分的に実施していくことを考えている。

山田委員

慎重な対応が必要。

(1号休憩所)

今西委員

1号休憩所の現状のデザインを活かした改修が楽しみ。名前が無機質だが、デザインは秀逸なので、そのギャップがかえっておもしろい。景観づくりについて、ツツジ類には地域性があるため、北摂山系の風景として適切な種類を選ぶべきである。ミツバツツジ類という大括りでとらえるのではなく、細かい種類にまで配慮すべき。地域性に配慮し、苗から育ててもよい

澤田委員

北摂山系なので、コバノミツバツツジが適している。

(現代地区)

澤田委員

現代地区の照明について、万博開催当時の写真を見ると、非常に魅力的。開催当時のデザインを再現してもよいのでは。ライトアップは、盛り上がりはあるものの、どこでも実施されている。満月の日はライトダウンするとかがあってもよい。

事務局

提灯のデザインを模している。

山田委員

電源はまだ残っているのか。当時の再現は考えているのか？

事務局

当時の電源は残っていないが、引っ張ってくることは可能。当時を再現するのがよいのか、新しいものがよいのか、改めてご意見をいただきたい。

今西委員

照明は、かつてのデザインを活かした方がよいと思う。目立たない照明なら無理に活かさなくてもよいが、全く違う目立つ照明となるとちょっとどうか。電気を使うなら、太陽光を利用する方が万博らしい。

檀浦委員

太陽の塔周辺での発電はどこで使われるのか。

事務局

全体の一部として使われている。

今西委員

照明について、閉館時間もあるので、ずっと点灯しているわけではないと思うが、つけっぱなしとなると、植物や昆虫に影響が出る。光害もあるので、その影響も考えた方がよい。

(3) 気象状況の変化について

澤田委員

熱中症対策について、日本庭園内で飲料は手に入るのか。ここの庭園は広いので、入り口で飲料を持っているかの確認をしてもいい。

事務局

現代地区、中央庭園に自販機がある。

井原委員

マップの中に給水ポイントを書いたらよい。

今西委員

紙和傘の貸し出しについて、事例紹介の写真の傘は安っぽく見えるので、庭園に合うものを選んでほしい。それが日本庭園の質を上げることになる。

(4) 生息動物について

(カラス)

今西委員

カラスは、鳴き声で会話している。ある鳴き声をスピーカーで流すと逃げていくという話もあるので、参考にしてほしい。

山田委員

タカを飛ばすなら、大々的にPRした方がよい。

澤田委員

カラスは何を食べているのか？

事務局

タケノコや木の実も食べている。小鳥が食べる分も奪っている。クスノキ、トウネズミモチなど大きめの実を食べる。タケノコを食べるのは珍しい事例。

澤田委員

カラスの個体調整として、好む木であるクスノキを切るなど、環境収容力を下げる方法がある。

(スクミリンゴガイ)

山田委員

駆除剤はどこで使用されているか？

事務局

ハス池、レンコン畑で使用されている。出荷物にも影響がない。試験的に取り組む。

澤田委員

スクミリンゴガイが減ったかどうかのモニタリングが重要。

以上